

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

高松市立下笠居小学校

## 【取組内容①】「情報活用能力」(高松モデル)を意識した個別スキルの向上

【記録と編集】写真や動画の撮影、音声の記録



1年生活科「きれいにさいてね」



1年図画工作科「すきまちゃんのすきなすきま」



【ウェブ検索】キーワードで検索



2年生活科「ぐんぐん育てわたしの野菜」

4月当初より、市が策定した「情報活用能力(高松モデル)」を参照し、児童に身につけさせたいスキルを発達段階に応じて明確化し、日常的な取組として実践を続けてきた。

その結果、すべての児童のスキルが向上し、自己課題の解決や協働的な学びの中で身に付けたスキルを活かして学びを深めている。スキルの向上は、児童の自己肯定感を高め、活動の幅も広げている。

## 【取組内容①】 課題解決に必要と考える情報を収集・共有し、課題解決を目指す授業

## 第4学年

## 総合的な学習の時間「下笠居の魅力を探ろう ～住吉川の調査をもとに～」



## 【事前・導入：情報収集と蓄積（個人） 学習支援ソフト】

- ① 情報を蓄積する
  - ・これまでの取組を振り返りながら、下笠居地区の魅力を確認し、単元のテーマに基づく課題を探っていた。
  - ・児童が個々に見つけた課題の解決に向け、Web検索により新たな情報を探り、蓄積していった。
- ② 児童自身が選択・判断する
  - ・個別最適な学びの実現に向け、児童自身が選択・判断できる場（自己決定）を保障していった。



## 【展開①：情報共有と協働学習（グループ）

学習支援ソフト、Microsoft Excel】

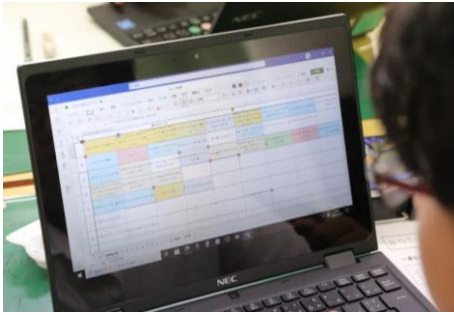
- ① 情報を共有する
  - ・学習支援ソフトを活用し、児童が収集した情報や考えをクラス内で共有した。
- ② 他者参照を促し、協働学習で学習を深める
  - ・情報を共有することで、つまづく児童や悩んでいる児童が他者参照でき、学びを進める支援となっていた。



## 【取組内容①】 課題解決に必要と考える情報を収集・共有し、課題解決を目指す授業

## 第4学年

総合的な学習の時間「下笠居の魅力を探ろう ～住吉川の調査をもとに～」



【展開②：思考の可視化と協働学習（グループ）  
学習支援ソフト、Microsoft Excel】

- ① 思考を可視化し、共有する
  - ・ Excelのシート上に児童個々の考えを入力することで、クラス全員の考えを一覧表として見えるようにした。
  - ・ TeamsのチームにExcelファイルをおき、児童が他者参照することで、課題解決に向けて考えを深めた。
- ② キーワードをもとに視点をもつ
  - ・ 児童が入力すると、あらかじめ設定したキーワードをもとにセルが色分けされるようにした。
  - ・ セルの色分けにより、考えを視覚的にとらえやすくなり、児童は調べる視点を明確にすることができていた。

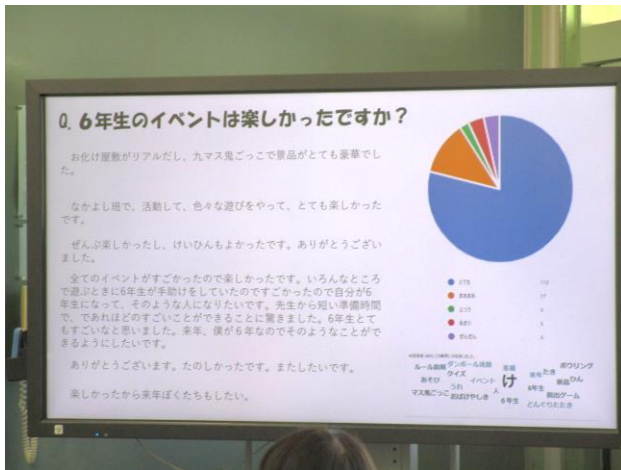
【終末：振り返りと次時への意識づけ】

- ① 単元及び本時を振り返る
  - ・ これまでの学習を振り返ることで、今後の活動への意識づけと意欲化を進めた。
- ② クラウド上で振り返る
  - ・ 今回は紙での振り返りだったが、今後はクラウド上で振り返り、常に見返すことができるようにしていきたい。

## 【取組内容①】協働学習・他者参照により、地域とのつながりや相手意識を高める授業

## 第6学年

総合的な学習の時間「わたしたちの手で下笠居の町をもっと笑顔にしよう」



## 【導入：相手意識をもつことの重要性】

- ① Formsを活用する
  - ・自分たちが行ったイベントについて、Formsを活用して集約・分析し、下級生の意識を把握した。
- ② 相手意識をもつ
  - ・児童は、下級生への意識調査の結果から、イベントを行う際には相手意識が重要であることに気づいた。

## 【展開①：地域とのつながり・地域への思い】

- ① 地域とつながる
  - ・地域おこしに取り組んでいる方から、地域や子どもたちへの思いを語ってもらった。
  - ・地域の方の話聞くことで、児童は地域への思いを強くし、地域の人とつながることの大切さを感じていた。
- ② オンラインでつながる
  - ・今回はビデオレターであったが、オンラインでつながることで双方向のやりとりができ、より効果的だと言える。



## 【取組内容①】協働学習・他者参照により、地域とのつながりや相手意識を高める授業

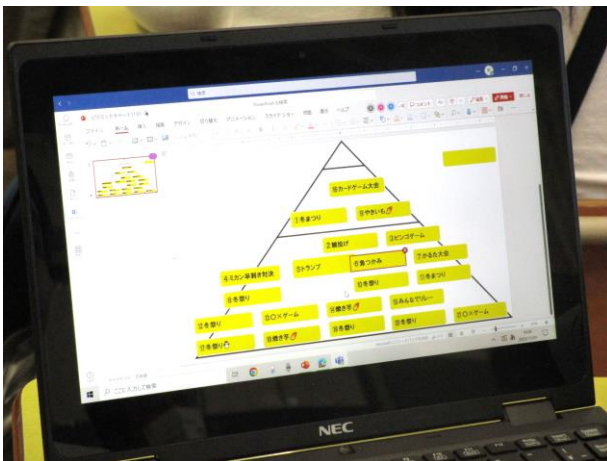
## 第6学年

総合的な学習の時間「わたしたちの手で下笠居の町をもっと笑顔にしよう」



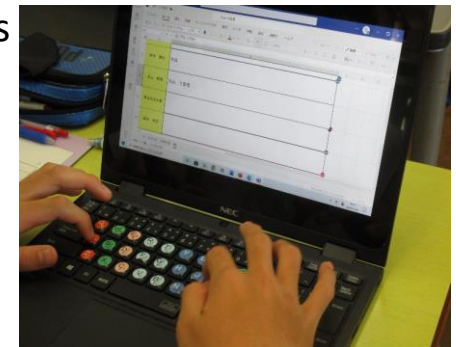
## 【展開②：協働学習・他者参照】

- ① 自己の考えをもつ
  - ・地域に向けたイベントについて、児童一人ひとりが自分なりの考えをまとめていった。
  - ・児童の主体性を高め、すべての児童が考えをもてるよう、他者参照することを勧めた。
- ② 考えを深める
  - ・学習支援ソフトを使い、個の考えを集約するとともに、最適解を導き出すための交流を進めていった。



## 【終末：振り返り Microsoft Excel】

- ① Excelファイル（一覧表）をTeamsのチームにアップロードし、個々に振り返りを入力する。
- ② 他者の入力内容を参考にするこで、深まりのある振り返りを残すことができた。



## 【取組内容②】 児童の課題解決に向けた外部専門家によるオンライン授業

## 第4学年 総合的な学習の時間

学習課題「住吉川のために自分たちができることを実践するとともに、1年間の取組を振り返りながら、地域内外に発信しよう」

校区を流れる住吉川の水質検査の結果から、児童は「住吉川の水をきれいにする方法を探りたい。」という追究課題をもった。そこで、「水育」に取り組む民間企業にオンラインによる出前授業を依頼し、写真や映像を通して、汚れた水をきれいにする森の働きやその森を育てる民間企業の活動について知った。



<児童は授業者とリアルタイムでやりとりを進めた>

## 【児童の反応（気付き）】

- ・（民間企業が）未来のために木をへらして森を明るくしたり、いろいろな種類の木を植えたりしていることや森を生まれ変わらせるためには長い年月がかかることが分かった。
  - ・（水を大切にするために）ソースや調味料を使いすぎないようにする。
- ※ 児童は、水を守る取組を知り、自らの生活を振り返ることができた。

## 【オンライン授業のメリット】

- ・ 見学やインタビューができない場所や人（専門家）とつながることができる。
- ・ 児童が追究したい内容に対し、専門家から丁寧に詳しく教えてもらうことで、新たな気付きが生まれ、幅広く深い学びへとつながっていく。

【取組内容③】 授業と連続した家庭学習の工夫

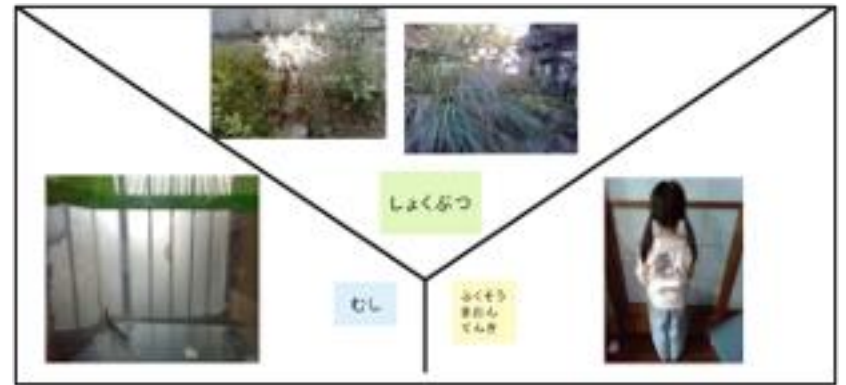
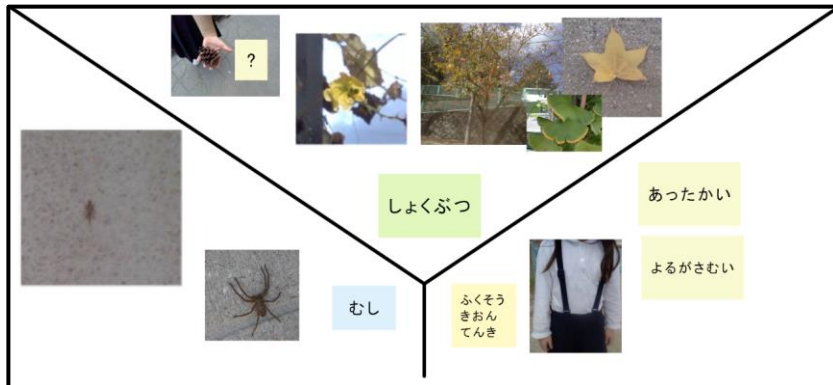
第1学年 生活科「たのしいあきいっぱい」

校内で「あき見つけ」をした後、Yチャートを用いて「植物」「虫」「服装・気温・天気」の3観点で分類することとした。授業時間中では、3観点を埋めきれなかったため、「タブレットを持ち帰って、家で調べてきてもいいよ。」と児童に促した。

すると、児童は、自宅で多くの「あき見つけ」を実施し、情報をつけ加えてきた。翌日の授業では、自宅で見つけてきた情報をYチャート上で分類・整理することができた。

今回の実践から、児童は、授業での学習意欲の高まりを大切にすることで学びが家庭につながり、より深まった情報収集ができることに気づいた。

こうした経験は、児童の主体的な学びのエネルギーとなると感じている。



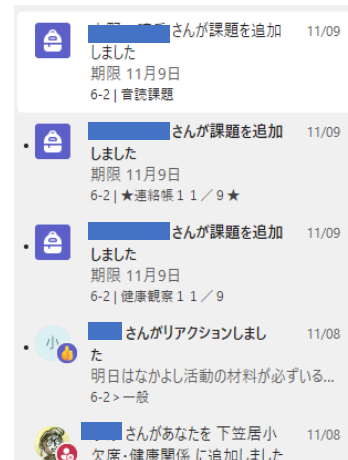
## 【取組内容③】 授業と連続した家庭学習の工夫

## 第3学年 国語科「サーカスのライオン」

授業で学習した場面を音読の課題として、出題した。いつもは、紙の音読記録用紙に保護者のサインをもらう形式で実施していたが、持ち帰りの実施にあわせて、学習支援ソフトの動画撮影機能を使って提出させた。

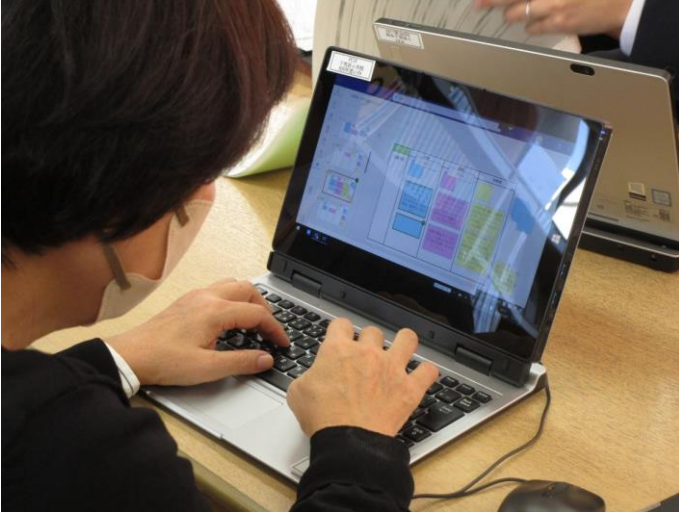
児童は、これまでも多くの授業で、動画撮影を経験しているもので、特に問題なく課題を提出することができた。動画撮影することで、音読の記録がポートフォリオとして集積されるため、児童は自分の成長をタブレット上で確認することができた。この取組は、だんだんと上達していく姿を自宅で確認することができるため、保護者からの評価も高かった。

また、同様の実践がTeamsの課題配信でもできるので、現在は、Teamsの活用も考えている。クラウド上に児童の記録が自然に集積され、それが児童の伸びを見取るポートフォリオとして活用できるため、こうした活用事例を増やしていければと考えている。

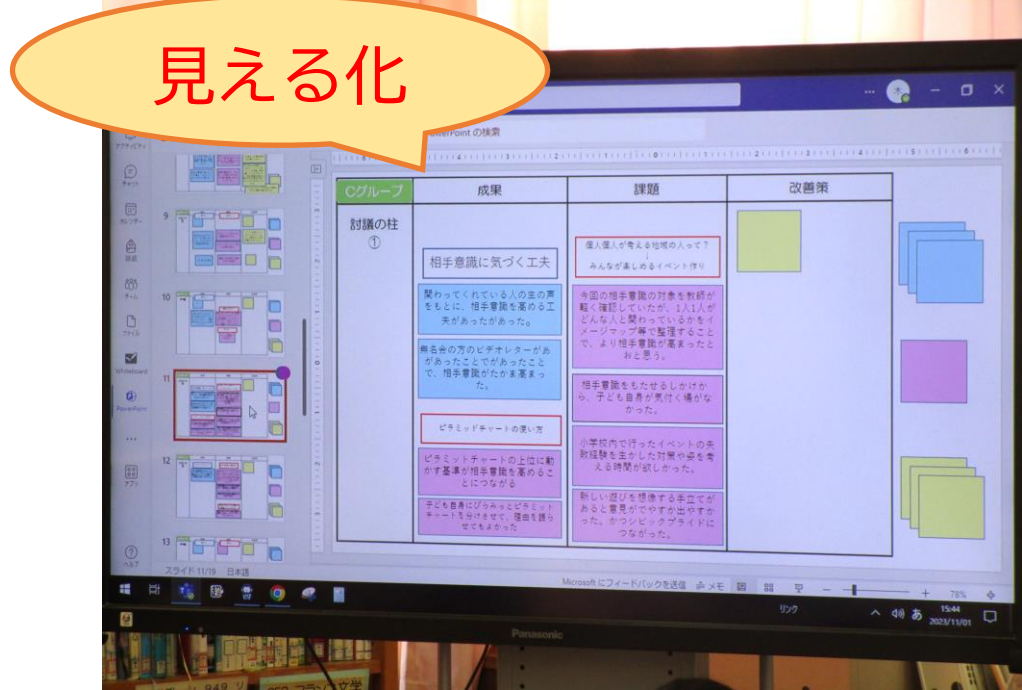




【取組内容④】 端末を活用した対話的・協働的な教員研修



<授業に対する意見入力（個人）>



<グループでの討議内容を電子黒板に提示（全体）>

【研究授業後の研究討議】

- PowerPointを活用し、個々に意見を入力後、グループ内で意見交流を進めながら協働作業により意見を集約している。
- 各グループでの討議内容を個々の端末で共有するとともに電子黒板に提示し、全体での意見交流を図っている。



<データを共有しての意見交流（グループ）>

## 【取組内容④】校務の効率化に向けたMicrosoft Formsを活用した欠席連絡と健康観察

Forms 下笠居小学校 保護者連絡用シート - 保存済み

質問 応答

下笠居小学校 保護者連絡用シート

当日の欠席・遅刻等の連絡は、午前8時までにお願いします。  
兄弟姉妹が複数名在籍している場合は、お一人につき1回ずつ送信してください。

1. 本日の日付を入力してください。

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

2. あなたのお子様の学年を教えてください。\*

1年

&lt;欠席連絡用のフォーム&gt;

3. 今日(きょう)の調子(ちょうし)はどうですか? [?] [?]

元気(げんき)です

あまりよくないです

4. どんな様子(ようす)か教(おし)えてください。 [?]

熱(ねつ)っぽい

頭痛(あたまがいたい)

風邪(かぜをひいている)

腹痛(おなかがいたい)

学年(がくねん)	クラスを選(えら)び	今日(きょう)の調子(ちょうし)	どんな様子(ようす)
1ねん	1くみ	元気(げんき)です	
1ねん	1くみ	あまりよくないです	熱(ねつ)
2ねん	1くみ	あまりよくないです	発しん(で)
1ねん	1くみ	あまりよくないです	下痢(げり)
3年	1くみ	元気(げんき)です	
5年	2くみ	あまりよくないです	頭痛(あたまがいたい)
4年	1くみ	あまりよくないです	体(からだ)
4年	2くみ	あまりよくないです	腹痛(おなかがいたい)
5年	1くみ	元気(げんき)です	
6年	1くみ	あまりよくないです	頭痛(あたまがいたい)

&lt;健康観察用のフォームとExcelでのデータの取り出し&gt;

## 【欠席連絡のオンライン化】

電話連絡が主であった欠席連絡をオンライン化することで、教職員と保護者の双方にメリットが感じられている。

## ① 教職員のメリット

- ・勤務開始前の電話対応が大幅に減少している。
- ・全校生の欠席状況を円滑に把握できる。
- ・Excelでのデータ取り出しにより、欠席状況の記録・分析が容易にできる。

## ② 保護者のメリット

- ・朝の慌ただしい時間帯に電話連絡をする手間が省け、正確に情報を伝えることができる。

## 【健康観察のデジタル化】

- ・健康観察をデジタル化することで、朝の時間のタイムマネジメントを図ることができる。
- ・児童一人ひとりの状況がデジタルデータとして残るため、健康状態について長期にわたり記録し、分析することができる。
- ・データを基に児童に対して適時適切な対応を進めることができる。